

産業連関表の作成とそれを活用した分析

国際商経学部 浦山 剛史



キーワード

産業連関表、市町村の産業構造、イベントの経済効果の測定

研究概要

産業連関表とは、国や都道府県において一定期間（通常1年間）に行われた財・サービスの産業間取引をマトリックスに示した統計表のことをいいます。国や都道府県については5年おきに作成しており（直近は国は2020年、都道府県は2015年のもの）、都道府県が自都道府県の産業構造を分析したり、イベントや大学の立地が地域にもたらす経済効果を測定したりする際に活用されています。しかし、市町村レベルで作成しているところは少ないのが現状です。

最近では、「令和2年度 姫路市大学発まちづくり研究助成事業」において、姫路市の産業連関表を作成し、それをもとに姫路市の産業構造の分析を行いました。

アピールポイント

産業連関表を作成することによって、市町村の産業構造の現状や変化、さらに地域のイベント等の経済効果といった情報を得ることができますので、それを政策に活用することができます。これまで産業連関表を作成してこなかった市町村や、過去に作成したことはあるがそれからかなりの年数が経過している市町村につきましては、産業連関表の作成も行います。

応用分野

（市町村）地域で行われるイベント等が、地域にどれだけの経済効果をもたらしているのかを把握することができる。

（大学等）大学の存在が、地域にどれだけの経済効果をもたらしているのかのアピール材料として利用することができる。
